

2019年「重点指導事項」

日本高等学校野球連盟
審判規則委員会

「ルールに則ったプレイ＝フェアプレイ」

昨年、スポーツ界は悪質なプレイやパワーハラスメントなど社会問題になる不祥事が相次ぎました。一方、平昌五輪スピードスケート金メダル小平奈緒選手のフェアな対応は胸を打つものがありました。

選手権大会が昨年 100 回大会を終え、高校野球が広く世間から支持されている要因のひとつに、「フェアプレイの精神」があると思います。「フェアプレイ」は、連盟のシンボルマークの中でも表現されており、スポーツを行う上での最も大切に重要な精神です。

今年は5月から新たな元号に変わります。選手権大会は 101 回を迎え、また新たな時代に入ります。様々な課題もある中、『不易流行』の変わらない真理として、「フェアプレイ」の更なる指導、徹底をお願いします。

定められたルールに則ったプレイ、これが「フェアプレイ」です。

今年度も昨年度に引き続き、下記の項目に対し特段の注意を払いましょう。

1. 正しい投球動作 5.07 (a) (1) (2)

打者への投球に関連する動作を起こしたならば、途中で止めたり、変更したりしないで、その投球を完了しなければならない。

振りかぶった腕を止めたり、上げた自由な足を止めたりしないで投球しましょう。また、軸足を投手板に着けた状態での“汗拭き動作”等の腕の動きは投球関連動作となり、このような動作の際にはまず軸足を正しく外すようにしましょう。

2. 正しい捕手の位置 定義 17 5.02 (a) 6.02 (a) (12)

捕手はホームプレートの直後に位置しなければならないと定められています。したがって、両足をキャッチャースボックスから出すことのないよう注意しましょう。

また、マナーとして、投球を受けた捕手が“ボール”をストライクに見せようとする意図でキャッチャーミットを動かしたり、球審のコールを待たず自分でストライクと判断して次の行動に移ろうとしたりする行為は止めましょう。

3. 正しい走塁 5.09 (a) (11)

一塁に対する守備が行われているとき、本塁一塁間の後半を走るに際して、打者走者は両足をスリーフットレーンの中かレーンを形作るライン上に置かなければなりません。

上記レーン内を走りましょう。

4. 打者がヒットバイピッチ(死球)を得るために、投球から避けない行為 5.05 (b) (2)

投球を避ける動作のないもの、およびエルボーガードを投球に対して突き出す行為は止めましょう。

以上